

木づかいガイドライン作成関連資料

1 平成 27 年度 木づかいガイドラインの活動方針について

- ① 平成 26 年度に作成した提案型「木づかいガイドライン さあ～しよう」の原案を基本に、各提案項目について提案が可能なものから順次提案者へ原稿を依頼して作成業務を行う
- ② 「木づかいガイドライン」は、こうした方法で順次提案者に作成依頼を図りながら、その内容を増やしていく
- ③ 並行して開催する「木づかいライブ・スギダラキャラバン」は、「木づかい」推進のリーダー役を務める根羽村森林組合がまとめ役となって、里山市民グループ・地元工務店・地域の団体等と連携しながら、流域内の様々なイベントとジョイントを図り、地域に活力を生み出す元気な人の輪を育成する
- ④ 「木づかいライブ・スギダラキャラバン」開催を通して、「森づくりガイドライン・木づかいガイドライン」等の森づくりと木づかい情報を発信して、矢作川流域の森林資源・木づかい推進活動を紹介しながら、森や木づかいのファンを増やしていく
- ⑤ 同時に、木育アイテムや「どこでもシリーズ」等スギダラ商品の開発を図りながら、矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を広く市民に提案して、その普及と定着を図る
- ⑥ こうした楽しい「木のある暮らし」の普及を基本として、市民自らのアイデアと行動で身近なあらゆる生活空間をスギダラケにする市民活動を生み出し、「人生を楽しみ愛する家族と共に幸せに暮らす 森や木とそれを育む矢作川の流れと共に生きるライフスタイル 矢作川デイズ」を確立する

2 木づかいライブ・スギダラキャラバンについて

●「流域ものさし」づくり

・入手済原木

スギ、ヒノキ、アカマツ、カラマツ、サワラ、コナラ、シデ、ミズメ、コシアブラ、ホオノキ、サクラ、タカノツメ、カエデ、トチノキ、ケヤキ

他にアベマキ、アラカシ、シデ、イヌツゲを山本薫久さんから入手予定

・植生の概念

潜在自然植生 現存自然植生

・植生分布

高山草原と廃松群落域

コケモモトウヒクラス域

ブナクラス域

ヤブツバキクラス域

矢作川流域

・ヤブツバキクラス域(標高 600～700m まで)

人間によって伐採利用され、二次的に生育している二次林としての代償植生となっている。本来の潜在自然植生はカシ類

クヌギーコナラ林

代表的な樹種として、クヌギ、コナラ、エゴノキ、クリ、ヤマザクラ、リョウブ、イヌシデ、アカマツ

植林地

スギ、ヒノキ、カラマツ

・ブナクラス域(標高 600～700m 以上)

代表的な樹種として、ブナ、ミズナラ、コシアブラ、カエデ類、トチノキ、シラカバ、ホオノキ、モミ、ツガ、サワラ

植林地

スギ、ヒノキ、カラマツ

●あそべるとよたDAYSのその後

- ・出展企画 ①ガゼボ、どこでもブランコ、どこでもウッドデッキ、どこでもオセロ
②バンブードーム、動く木のおもちゃ、木のペンダント、表札、輪っば
- ・出展期間 11月1・2・3日 実質2日間で2,000人を集客
- ・出展場所 豊田市駅前 T-フェイス前広場
- ・木づかいによるプレイスメイキング居心地の良い人のあつまる空間づくり・場所のカづくり→豊田市都市整備課、商業観光課、環境政策課で横断的な検討化の兆し
- ・今後、豊田市駅前商業施設Tフェイスと根羽村との連携体制の可能性はある。

- ・また今後、上下流域連携のシステム化としての展開が期待できる。
- ・豊田市・安城市等の緑地公園等を中心に「子供たちに木と触れ合える場を創設」したい→豊田市がプレイスメイキングの導入支援措置を検討、企業によるCSRを促進させられるか

● 「どこでも根羽物置」の今後

- ・今後、スギダラキャラバンや木づかい授業の一環として学校の校庭等で生徒によるセルフビルドに取り組みたい

● 根羽村の間伐実績によるカーボンオフセットクレジット購入から(28年度販売見込み)

- ・下流域の市町村等に原則的に購入者のCO2排出分のクレジットを購入してもらい、それを原資として「木づかいライブ・スギダラキャラバン」を実施する
- ・単に空気を購入しても市民の目には見えない。これを原資に「木づかいライブ・スギダラキャラバン」を実施し、購入者と協働して「地球温暖化防止」「下流域の木づかいによる森林整備推進」「森林の公益的機能の発揮」「水資源の安定供給」「林業による持続可能な山村」をPRする
- ・こうした話を企業の方にも説明した時、企業のCSRの一形態として取り組みやすい、との意見をいただいた。

- 次世代を担う子供たちとその親に向けて 明るい未来をチーム流域で考える 共感からブレインストーミングを経た一体的な発進へ 一緒に考えて活動する

山村・里山・都市公園等での様々な原体験(幼児期～小学生)



木づかい工作・子供たちとの土曜日山川海プロジェクト(小中学校の管理教育から離れて)



知の集積・流域連携と課題を考える・農山魚村での主体的なチャレンジ活動・市民活動開始(中学高校・大学・若者)



流域で生きることを選択した主体性を持った担い手へ

チーム流域によって豊かで幸せな一次産業を確立し、それで生活していける現代の桃源郷へ

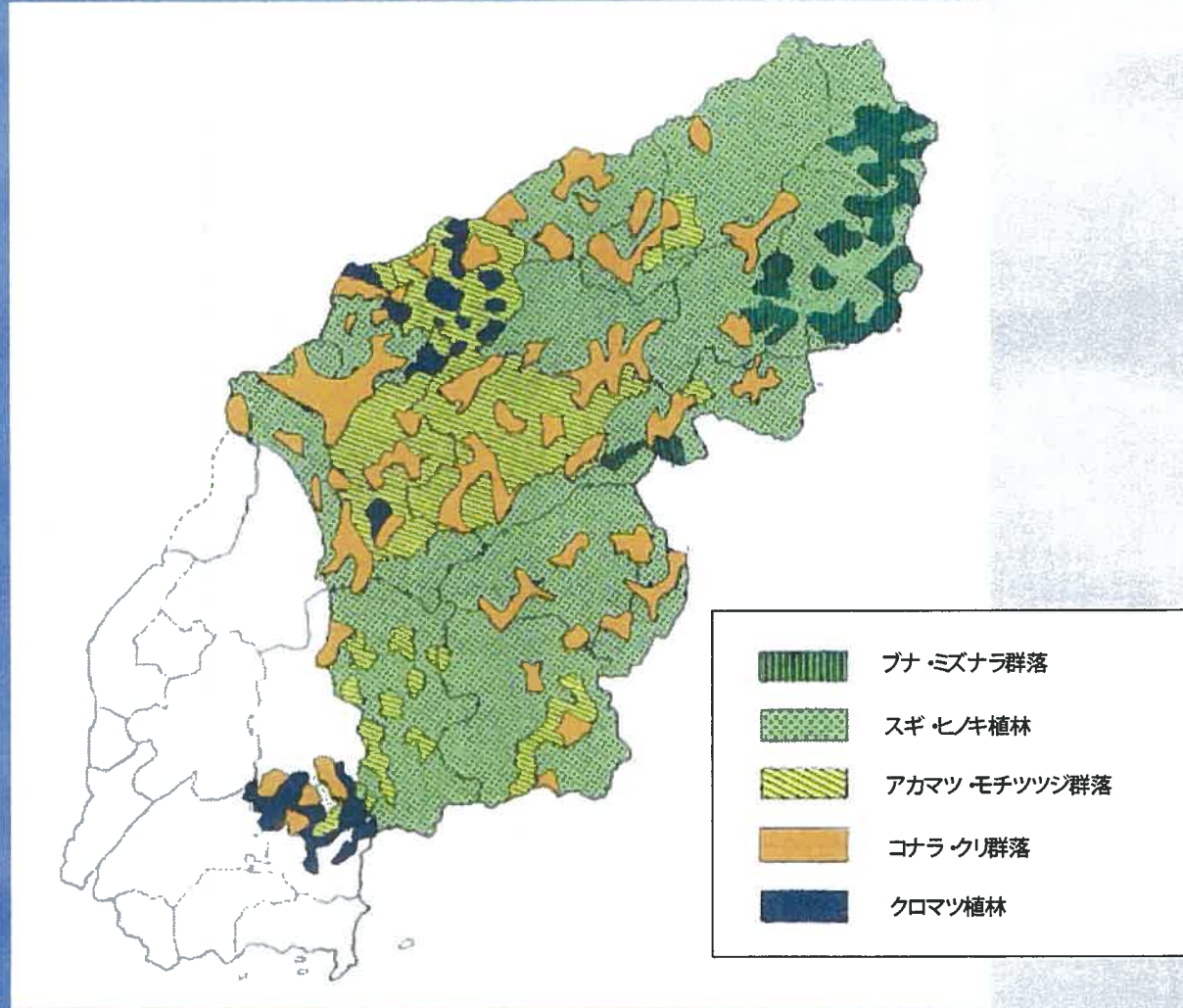
3 木づかいガイドの取り組み整理

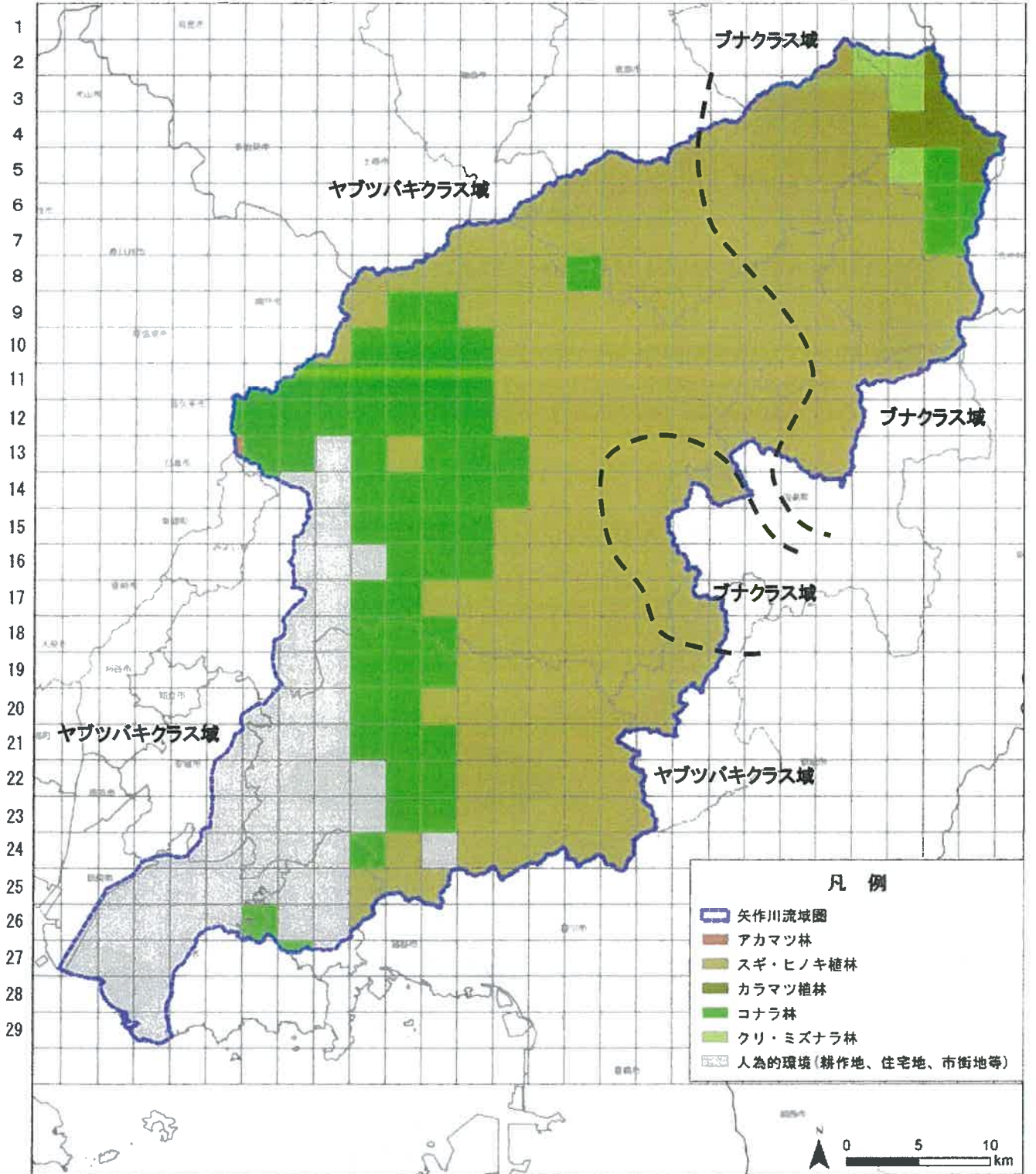
別紙のとおり

山部会 木づかいガイドライン作成の取り組み整理

区 分	主 体 者	内 容
木づかいガイドライン	市民 行政 業界 研究者	「さあ~しよう」提案
木づかいライブ スギダラキャラバン	根羽村森林組合	別紙 スギダラキャラバンの実施 スギダラ天竜支部との連携 木の魅力と楽しさを「森の民」が伝える 木製品の受注販売 木づかい推進の取り組みに対する公的資金による支援
4 様々な木のある暮らしのアイテム提案	根羽村森林組合	どこでもシリーズ → 水平展開から垂直展開へ 動く木のおもちゃ → 木の魅力に釘付け・木の魅力への導き 流域ものさし → 全国共通アイテム化・私の流域甲子園 根羽物置 → 手が届く価格・実用的・自由設計・自分で建てられる 安曇野市 中房温泉 貸切風呂「根羽の湯」 → 露天風呂交流
矢作川ディズ・木づかい市民活動・ フェアトレード・流域連携	あそべるとよたプロジェクト 流域フェス 豊田市 市民 東幡豆漁業組合と根羽村森林組合 安城市と根羽村森林組合 中房温泉と根羽村森林組合 信州大学等と根羽村・根羽村森林組合 豊田市製材工場と根羽村森林組合 流域内工務店と根羽村森林組合	市民提案・参加型プレイスメイキングによる流域連携の拠点創設 流域連携イベント → 市民活動に向けたキックオフ 川会議による流域連携 私の流域物語・スギダラキャラバンへの参加による木の魅力の気づき 漁礁及び憩いの浜辺プレイスメイキング(場所のカづくり) 木材利用指針・公的資金支援・カーボンオフセットを原資とした木づかい推進活動 愛知県小中学生を対象とした温泉・山岳・森林・木づかいファンづくり 流域資源活用・持続可能な流域づくりのための流域内知の集積ツアー お互いに補完しあう矢作川流域材の生産・流通 木づかい推進活動と連携した「子供の時から始める木の家づくり物語」

山地の植生





シ・ウラジロガシ・ア
録カシ類の自然林でし

の影響と、対応する
こうにまとめることが
植生との関係が、正
の生活域にいろいろ
因や、それぞれの植
な人間の干渉がおこ
できる。
代償植生にかえたい
ための方法もあきら

保護の将来計画
、自然植生と現存植
る。

ハンノキ林、クヌ
常緑カシ林域は畑地
変丘が、斜面に接し
屋敷のまわりには、
見られる。山のゆ
コナラ林となって、
頂や急斜面には、
植林されている。
域の自然植生は、
れて、代償植生に

代償植生は、長い
環境条件と人為的
→p.26) となって
うほど、長い間、
あって、いわば、
くれた、ふるさと

的代償植生も、
している。
今後の開発計画に
よく、潜在自然植
地の質を見きわ
である。
限の“緑”の植
る自然植生の、
要である。
も重要な基本課

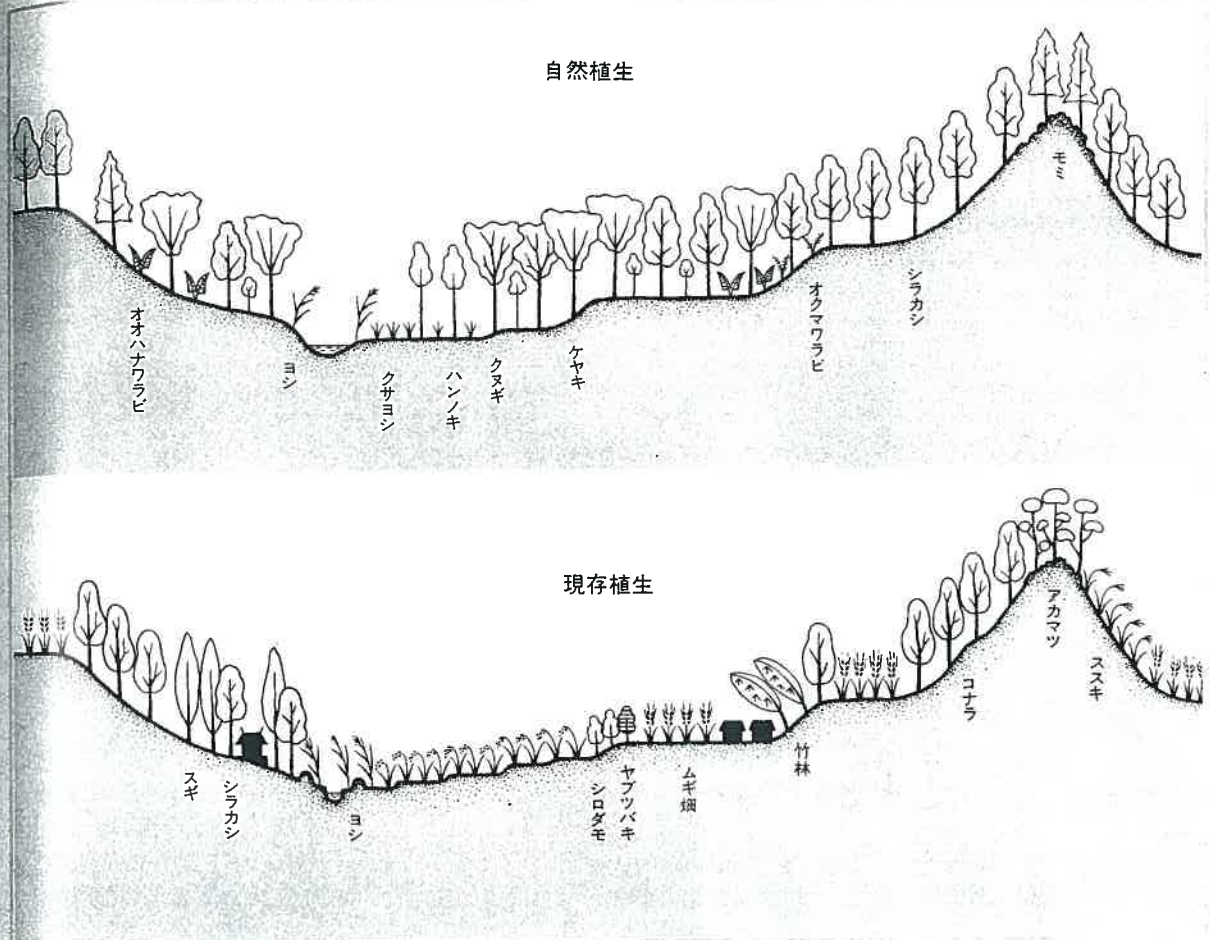


図1 現存植生と自然植生の配分模式

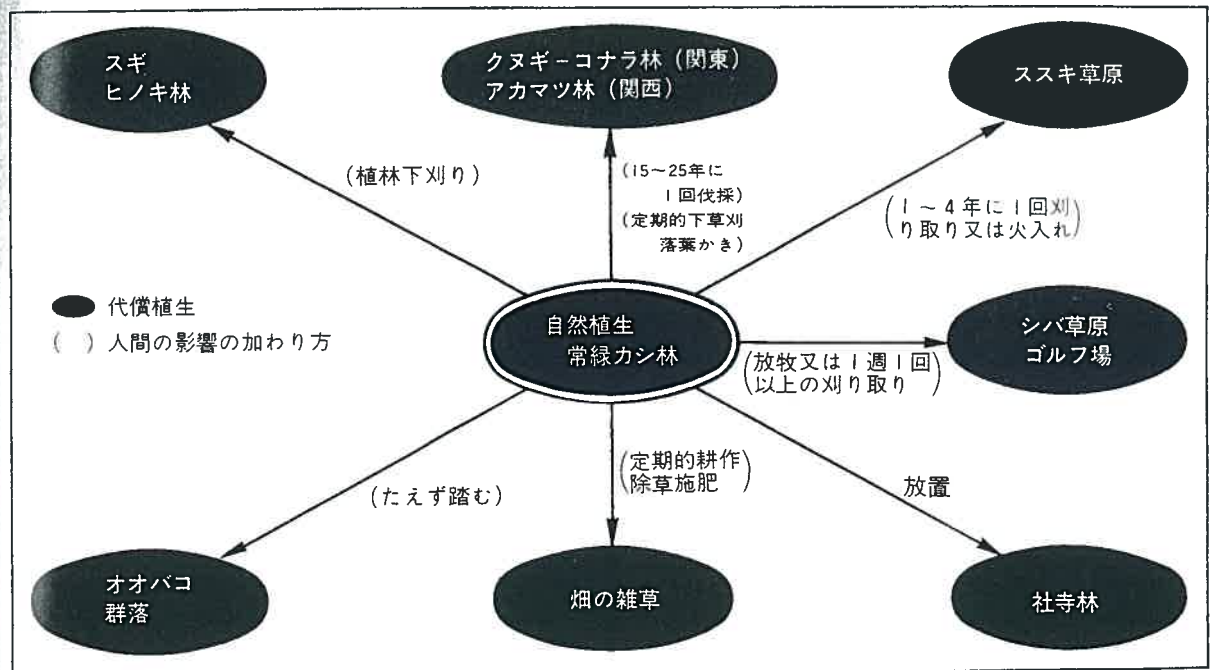
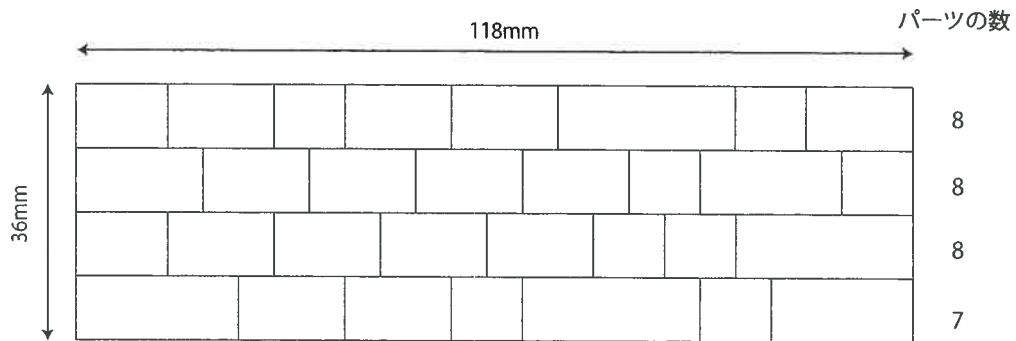


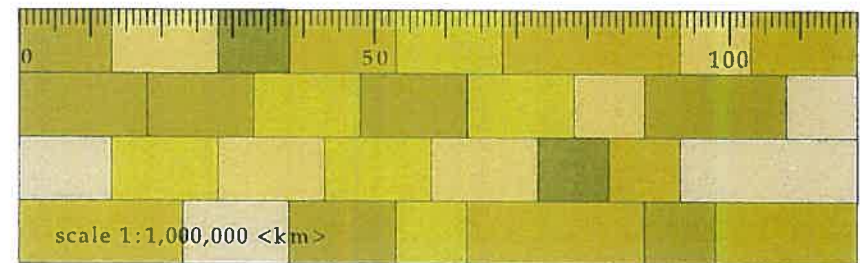
図2 カシ林域に対する人間の影響とそれによってできる代償植生との相互関係

パターン①



計 31

<いろいろな樹種を使った時のイメージ>

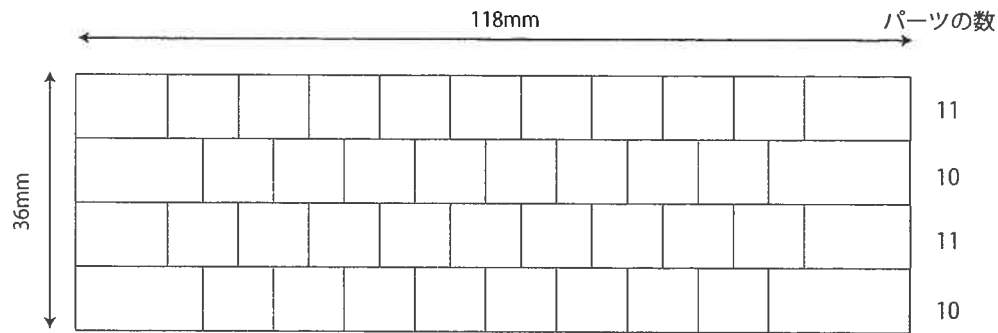


様々なサイズのパーツをミックス。

118cm というサイズの中でも、繊細さや多様性が見せられる。

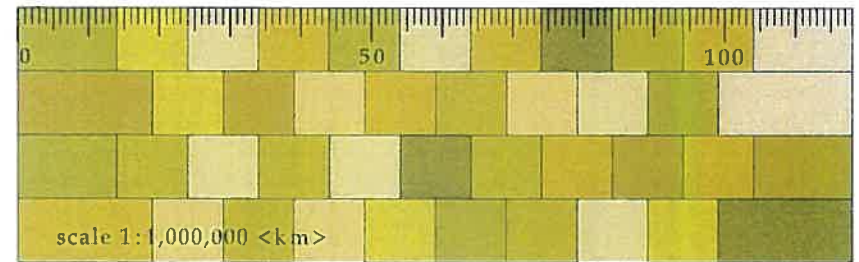
10mm のパーツは、少し扱いづらいかもしれない。

パターン②



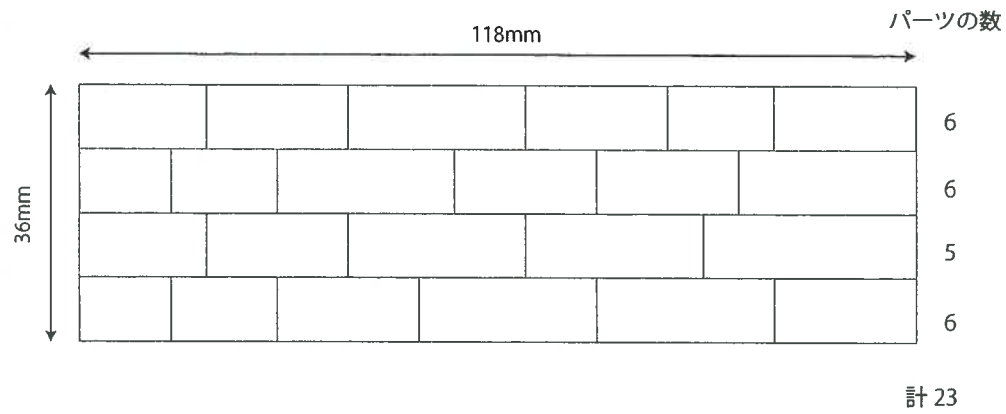
計 42

<いろいろな樹種を使った時のイメージ>

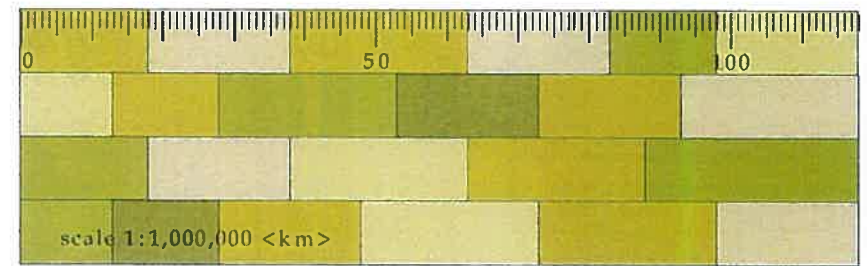


小さいパーツを中心に使用。ものさし全体の長さが短いが、規則性を持たせれば、模様のようにすることもできる。ただし、接着に時間がかかり、パーツも細かいため、はじめて作るにはハードルが高い。

パターン③



<いろいろな樹種を使った時のイメージ>



大きいパーツを中心に使用。

比較的、短時間で作ることができ、はじめて作る場合も、パーツを扱いやすい。

パーツ数 23 なので、ある程度木の多様性を見せられる。



ウッドスタート ガイドブック

地方自治体 企業 幼保育園

赤ちゃんから始める生涯木育






企業版の要綱・概要

必要項目




以下3つの必要項目をご実施頂く事で、ウッドスタートパートナーに認定させていただきます。

- 【共通特典】 ・東京おもちゃ美術館の一口館長の積み木 (小) を館内入り口に掲示。
・木育キャラバンのリーフレットにロゴ掲載 (小)。

誕生祝い品	費用：出生数 × (おもちゃ+書籍)の代金 ※原則としてウッドスタート宣言自治体のおもちゃから選択。	
一口館長	費用：一口10万円 東京おもちゃ美術館の一口館長になって頂く。	
木育インストラクターの受講	受講費用：12,400円/人 木育を理解し、継続的に実践していくための人材を育成する。	

オプション

以下からプランを選んで頂くことで、ウッドスタートのオフィシャルスポンサーに認定させていただきます。

1. 松プランー200万円	 <p>【特典】 (1) 木育キャラバンリーフレットにロゴ掲載 (サイズ大)。 (2) 木育キャラバンの開催。 (3) 企業ロゴ入りのおもちゃを木育キャラバンへ導入します (床パネル+積み木)。 ※ただし原則として、ウッドスタート宣言自治体の材を使用。</p>
2. 竹プランー50万円	 <p>【特典】 (1) 木育キャラバンリーフレットにロゴ掲載 (サイズ大)。 (2) 年1度開催される「東京おもちゃまつり」へ企業ブース出展。 (3) 企業イベントへのおもちゃコンサルタントの派遣。</p>
3. 梅プランー30万円	 <p>【特典】 (1) 木育キャラバンリーフレットにロゴ掲載 (サイズ中)。 (2) 年1度開催される「東京おもちゃまつり」のパンフレットにロゴ掲載。 (3) 一口館長の積み木 (大) を東京おもちゃ美術館内入り口に掲示。</p>

※木育スペースのデザイン・監修や、木育に関わる各種取り組みへのサポートについては都度ご相談を承ります。

木育キャラバン

移動型のおもちゃ美術館。赤と緑のキャラバンボックスに、木のおもちゃと遊びをギッシリ詰め込んで、各地に即席おもちゃ美術館を期間限定で設営します。

全国各地にて、毎年 30 回以上開催しています。

市民センターや会館などのホール、広場、学校の体育館。テパートなど、あらゆる場所で行っています。お子様から親御様まで楽しむことができるため、多くの集客につながるイベントになっております。



木育キャラバン開催実績

事例1 池袋での木育キャラバン (株長谷萬)



(株)長谷萬は木場の老舗木材流通企業(2015年7月にウッドスタート宣言)。木育キャラバンにおいてファミリー層に自社をPR。

事例2 福井県産業会館(福井市)で保育園主催の木育キャラバン



福井市の保育園のウッドスタート宣言(めぐみこども園)に合わせ、同園主催の木育キャラバンに長蛇の列。15,000人ももの来場者。

事例3 東京ビッグサイトでの大規模展示会で木育キャラバン(ナイス株)



国内最大級の木材展示会。3日間で65,000名の来場者。

語り合おう、全国の木育の今と未来

「ウッドスタート」で
子どもの未来と日本のくらしを考える。



第3回

初の地方開催

全国木育サミット in 信州しおじり

2016.3.11 [金] MOKUIKU summit 2016

東京おもちゃ美術館
林野庁補助事業

開催場所 レザンホール(塩尻市文化会館)

参加費 無料

参加予約申し込み webにて受付中 ※当チラシの裏面をご確認ください。

お問い合わせ:

認定NPO法人日本グッド・トイ委員会事務局

tel:03-5367-9601 fax:03-5367-9602

Email:ws@mokuikulabo.info

木育サミット

検索



Shioyuri Nagano Prefecture



第3回 全国木育サミット

木育でつながる命と絆を
「アルプスの麓」から考える。

木に親しみ、木を活かし、木と共に生きていく「木育」の活動を、多くの人に知ってもらったための木育サミット。今回は初の地方開催ということで、「アルプスの麓」長野県塩尻市から木育の最新情報を発信していきます。「くらし」、「あそび」、「まなび」の視点から木育を推進されている方々にその取り組みをご紹介いただくことで、木育を更に広めていくためのヒントをつかむ機会とし、また日本各地で木育に取り組む方々に一堂に会してもらうことで、木育の活動を行う人たちのネットワークを強化していくきっかけにしたいと思います。

「ウッドスタート」とは？

「木」を活用した子育て・子育て環境を整備し、子どもをはじめとするすべての人たちが、木のぬくもりを感じながら、楽しく豊かに暮らしていけることができるようにしていく取組のこと。子育てサロンの木質化・木育化や、誕生祝い品に木製玩具をプレゼントする事業など、今、全国各地で地域材を活用した「木育」の取組が始まっています。特に本年度は企業と自治体の木育コラボレーションの実現に向けた「お見合い」を積極的に推進中です。

□参考情報

26自治体、12団体

※一部予定も含む

東京おもちゃ美術館と「ウッドスタート宣言書」を交わした自治体及び企業・団体の数です。行政、企業などさまざまな枠組みを超え、ウッドスタートの輪が広がっていきます。

約4,000個

日本中に支給された誕生祝い品の数です。赤ちゃんに新しく届いた木のおもちゃが生み出した笑顔の数は、さらに2倍、3倍と大きな数を産み出しています。

10:00

開会挨拶

主催者挨拶：多田 千尋 (東京おもちゃ美術館館長)
 開催地代表挨拶：小口 利幸 (塩尻市長)
 実行委員長挨拶：山田 正治 (塩尻商工会議所会頭)



基調講演：
 今井 敏 (林野庁長官)

10:15

基調講演

今井 敏 (林野庁長官)

10:30

特別公演

「心に木を植える」C.W.ニコル (作家・ナチュラリスト)

11:30

ワークショップセッション

木育サミットお申し込み時に、右記の14メニューの内からお一つ選択ください。先着順に受付。定員になり次第締切ります。

12:30 昼食・休憩 ※お弁当をご用意しております。希望される方は併せてフォームにてご選択ください。

13:30

セッションI：「暮らし」と木育

清水 智 (株式会社良品計画 取締役)
 長谷川 泰治 (株式会社長谷萬 副社長)
 椎川 忍 (一般財団法人地域活性化センター 理事長)
 座長：水谷 伸吉 (一般社団法人モア・トゥリーズ 事務局長)

15:00

セッションII：「まなび」、「あそび」と木育

若杉 浩一 (パワープレイス株式会社 シニアディレクター)
 竹内 延彦 (長野県県民文化部次世代サポート課 企画幹)
 浅田 茂裕 (埼玉大学教育学部 教授)
 座長：多田 千尋 (東京おもちゃ美術館 館長)

16:15

クロージング

総括：山下 晃功 (島根大学 名誉教授)

16:30 終了



オプション

「木の文化」体感ツアー in 塩尻

木育サミット参加者の皆さま限定で、サミット翌日の12(土)に、塩尻の森のめぐみ、木の文化などを存分に体感できるツアーにご参加いただけます。

【訪問予定場所】

- 奈良井宿：重要伝統的建造物群保存地区とされている信濃町約1kmを散策
- ワイナリー見学：結硬ヶ原にあるワイナリーの見学、試飲、お買い物

●定員：50名 ●参加費：無料 (食事代等各自負担)
 ツアーを希望される方は、「木育サミット2016」を申し込み時に、併せてフォームにてご選択ください

●詳細は木育サミット2016のホームページ上にてご確認ください

※プログラムは一部変更になる場合がございます。予めご了承ください。

01 森から考える
子どもたちの未来・日本の未来 **定員:200人**

C.W.ニコルさんの特別講演を受けて、新たに2人のナチュラリストを加えてディスカッションを行います。国産材にこだわった家具・おもちゃの製作、そして最近では国産アロマの生産に傾注しているオークヴィレッジ会長の榎本正さん、もう一人は生態計画研究所主任研究員の村松亜希子さん。自然と人をつなぐインタープリターとして活躍しながら、2児の母として八ヶ岳の自然の中で育児真っ最中。もちろんニコルさんも加わり、3人で森から子どもたちの未来、日本の未来を考えます。

C.W.ニコル(作家・ナチュラリスト)、榎本正(オークヴィレッジ株式会社社長)、村松亜希子(生態計画研究所主任研究員) コーディネーター 馬場 清(NPO法人日本グッド・トイ委員会事務局長)



C.W.ニコル氏



榎本正氏



村松亜希子氏

02 かなのことは俺たちに語らせろ!
~木を大切に削るコツ~

素晴らしい道具があったからこそ、伝統的な木材加工技術が発展してきました。2大巨頭が語るかなの神髄と削りの妙技を肌で感じて下さい。

長野県上松技術専門学校 校長 上條 勝
島根大学 名誉教授 山下 晃功

定員:50人



03 塩尻の木育推進がうまくいっている理由

なぜ商工会議所が木育に関わるのか。「ひと」をつなげ、「ひと」が支える塩尻流木育推進のやり方を教えます!

塩尻商工会議所
総務課長 海津 健司

定員:50人



04 全国の生産者による
木育の取り組み **定員:20人**

国内の木や竹を活用し、技術道具を継承してものづくりを行う工場が参加する木育全国生産者協議会のメンバーと話しませんか。機土佐龍 池 龍昇社長、小岩商店 小岩 寛代表、炭酒井産業 福井 久徳専務、西片 睦実事務局長



05 塩尻市の保育園
木育の取り組みの紹介

木育を推進しウッドスタート宣言をした塩尻市、自治体支援センターや保育園の事例報告に加え、大学附属幼稚園の子どもの変化をお伝えします。掛川 佳子所長、大和 由理子園長、山本厚一園長、小原(酒井産業)

定員:20人



06 森林を利用した体験活動の具体例と
簡易ツリーハウスづくりの実践

森林を活用した自然体験プログラムの活用例を、対象年齢別にご紹介し、代表的な活動(ツリーハウス作り)を室内で実践してみます。

信州外あそびネットワーク代表
田口 真朗

定員:100人



07 木育おもちゃ産業プロジェクト
について

木曾の木製おもちゃ開発を始めた新たな産業創出&国内外市場開拓の紹介とディスカッション。

街Tree to Green 取締役
小瀬木 隆典

定員:20人



08 ~森と生きる 森を生かす~
塩尻市の森林再生へのチャレンジ

木質バイオマスエネルギーについてみんなで考えてみませんか?塩尻市が取り組む林業再生事業をご紹介します。

塩尻市役所 FPプロジェクト主任 小瀬 亮
塩尻市役所 林業振興係長 西條 健彦

定員:30人



09 林業会社の木育事業報告会:
リアルに都市住民と山をつなぐ「木育」

林業会社ならではの木とふれあう体験を通じた木育活動のご紹介。木を好きになる取り組みです。

株式会社東京チェーンソーズ
代表取締役 青木 亮輔

定員:20人



10 「木育」による町おこしを。
ウッド・スタートははじめませんか?

ウッドスタート宣言をしている自治体・企業からの実況報告と、新たなウッドスタートへの個別相談会を開催します!

NPO法人日本グッド・トイ委員会
ウッドスタート事業部 遠藤 智史

定員:30人



11 森と人をつなげる人力の木工
「グリーンウッドワーク」の可能性

森の樹が暮らしの道具に早変わり、人力の木工グリーンウッドワークの活動紹介と椅子づくりの実演を行います。

NPO法人グリーンウッドワーク協会
理事長 小野 敦

定員:20人



12 森を育てる
おもちゃを作る・木育を伝える「ぎふ木育」。

定員:20人



「森や木からの学び」を目指す「ぎふ木育30年ビジョン」。このビジョンに向けて林業家・木匠家など、木育を考えていく仲間を紹介いたします。

岐阜県木育推進協議会 篠田 展之

13 信州型
自然保育認定制度

定員:100人



長野県が取り組む自然保育の理念や具体的事例をご紹介します。子どもの成長における自然体験の意義や効果を共有しましょう!

長野県県民文化振興部次世代サポート課企画幹 竹内 延彦

14 長野スギダラ
倶楽部

定員:30人



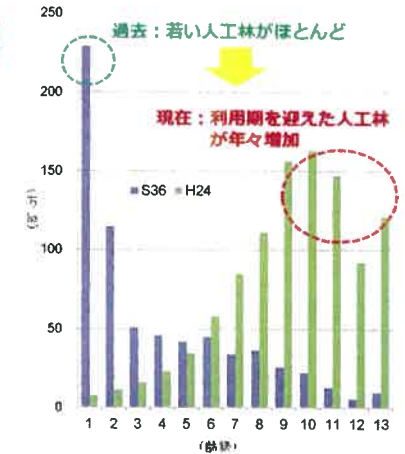
長野県の森林資源を活かす、様々な暑苦しい活動のご紹介。炭合、家具、桶、地元を盛り上げる音が聞こえます。まさにオケストラです。パープブレイス株式会社 シニアディレクター 若杉 浩一

我が国の森林資源の現状

■ 森林蓄積の推移



■ 人工林の齢級構成

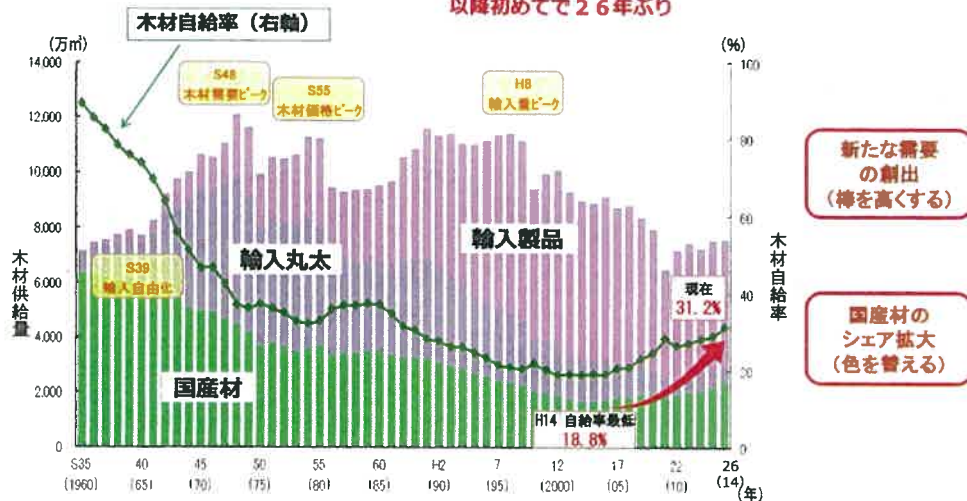


林業の成長産業化による地方創生を目指して

林野庁業務課長 小坂善太郎
平成27年11月28日

30%台を回復した木材自給率

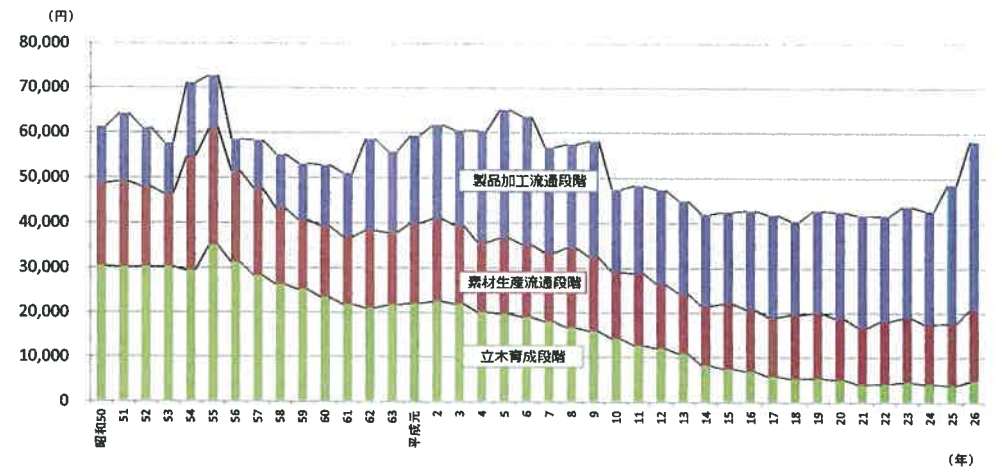
木材自給率30%超えは、昭和63年以降初めてで26年ぶり



国内生産の国産材原料率 (H25) : 製材 7.2% 合板 7.2% 集成材 2.4%

木材価格の構成の試算

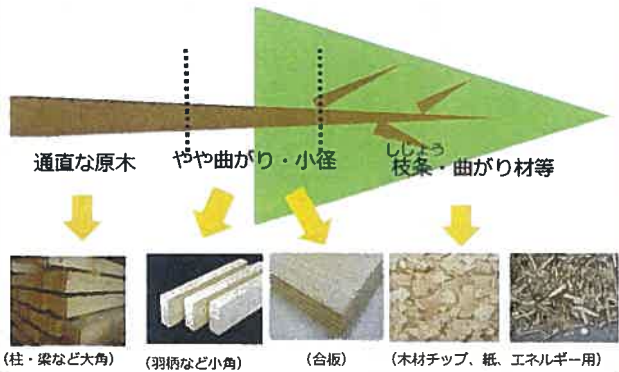
■ スギ正角の価格の内訳



出典：(財)日本不動産研究所「山林高地及び山元立木価格調査」、農林水産省「木材需給年報調査(平成7年9月)」、(昭和50年～平成5年)、「木材需給報告書(平成6年～25年)」、「木材価格」(平成26年) 注) 製材から製材品へは歩留まりを65%として計算。

木材のフル活用と高付加価値化

○ 一本の立木から、品質の異なる原木丸太が生産され、それぞれ異なる用途に利用されるが、需要構造に応じて境目は変動。



課題

- ① A材の利用
- ② 大径材の利用
- ③ 100年を見据えた利用

5

A材・B材・CD材のバランスのとれた需要拡大について

	国産材需給量の推移		需要拡大に向けた対策
製材 A材・B材	H14 1,114万㎡ (32%)	→ H26 1,221万㎡ (47%)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工務店・製材所等の連携による地域材を活用した家づくり (A材) ・ CLT等の開発普及 (B材) ・ 公共建築物等への利用 (A材・B材)
合板 B材	H14 28万㎡ (2%)	→ H26 335万㎡ (30%)	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンクリート型枠への利用 (H27からグリーン購入に位置づけ) ・ フロア台板など
パルチ、 燃料材 C材	H14 472万㎡ (13%)	→ H26 689万㎡ (20%)	<ul style="list-style-type: none"> ・ FITによる木質バイオマス利用の推進 ・ 小規模、熱利用の推進

資料：木材需給表(農林水産省)

6

林業の成長産業化へのシナリオ

林業の成長産業化が記載された主な国の基本方針等

- ・「経済財政運営と改革の基本方針2015」(平成27年6月)
- ・「まち・ひと・しごと創生基本方針2015」(平成27年6月)
- ・「日本再興戦略改訂2015」(平成27年6月)
- ・「国土形成計画(全国計画)」(平成27年8月)

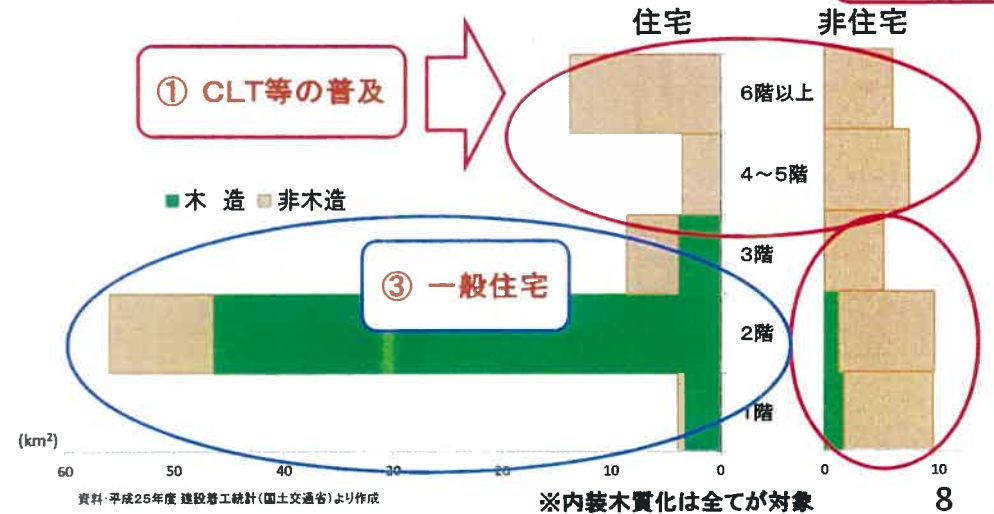


7

階層別・構造別の平成25年度新設着工床面積

- 住宅分野における木造率は約6割。そのほぼ全てが低層の戸建住宅。
- 非住宅分野における木造率は1割以下。低層建築も木造率が低い。

② 公共建築物
商業施設
オフィス



8

CLTの開発・普及

クロス ラミネイティド タインバー
CLT(Cross Laminated Timber : 直交集成板)



■ひき板を繊維方向が直交するように積層接着した重厚なパネル

CLTのメリット



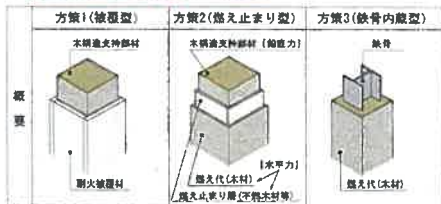
- 建物の重量が軽くなり、**基礎工事等の簡素化が可能**
- 型枠職人等熟練工への依存が少なく、**工期の縮減が可能**
- 延べ床面積あたりの木材利用量は在来軸組工法に比べて**2倍以上**

CLTの普及に向けたロードマップ(抄)



耐火部材の開発・普及

木質系耐火部材の方式



2時間耐火部材の誕生



- **準耐火建築物とは**
 「通常の火災による延焼を抑制する」ことが必要であり、構造体が時間をかけて燃えるようにすることで、発生した火災の**想定時間中(45分又は60分間)に、建物が崩壊することがないように**しなければならない。
 一般的に3階まで。H27.6から3階建校舎が準耐火で建築可能となった。
- **耐火建築物とは**
 「火災が終了するまでの間、建築物の倒壊及び延焼を防止する」ことが必要であり、火災により構造体が**全く燃えないようにして、かつ、火災が鎮火した後も建物が崩壊しないように**しなければならない。
 一般的に、4階が一時間耐火、5～14階が2時間耐火の性能

公共建築物等の木造化

H22年公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律 公布・施行

- 基本方針で、「国又は地方公共団体の庁舎や学校、老人ホームなど**公共性の高い建物は、木材利用に努める**」と明記

公共施設における木材利用の事例



都心部における木造・木質化の事例



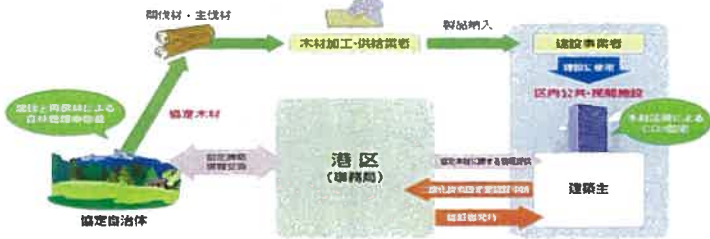
【東京都港区・みなとモデルの取組】

- 港区内で建築・改築する建物・施設等について(当面は延べ床面積5,000㎡以上のものを対象)、港区が使用された木材使用量を評価し、二酸化炭素固定量を認証する仕組み(木材使用量の基準値を定め評価)
- 協定自治体(※)内の一定の条件を満たす森林より産出された木材および木材製品(協定木材)を対象とすることを基本とする
- 延べ床面積5,000㎡未満の建物・施設等については、自主的に申請を行い、二酸化炭素固定量の認証を受けることが可能
- 平成23年10月1日より開始

※港区と協定を締結した自治体: 全国75自治体(平成27年6月末時点)

- 基準値(★)
延べ床面積1㎡につき 0.001㎡
- アップグレード値①(★★)
延べ床面積1㎡につき 0.005㎡
- アップグレード値②(★★★)
延べ床面積1㎡につき 0.010㎡

二酸化炭素固定量 (t-CO₂)
 = 建物全体における対象木材の使用材積 (m³) × 容積密度 (t/m³)
 × 炭素含有率(0.5) × 二酸化炭素換算係数 (44/12)



協定木材であることを識別するために、uni4mマーク(ユニフォームマーク)を使用



非住宅分野の木造化

○ 低層系の非住宅の市場において品質・コスト競争力をもつ木造建築の普及を図るため、プレカット等による標準化・合理化の仕組みを整備するなどの技術的支援を実施。

(一社)中大規模木造プレカット技術協会
 ・ 木造校舎JISの標準設計図、JBNTラスなどを活用し、標準図・構造計算ソフト・積算システム等の整備に取り組む。
 (平成26年9月に発足平成27年4月に一般社団法人化)



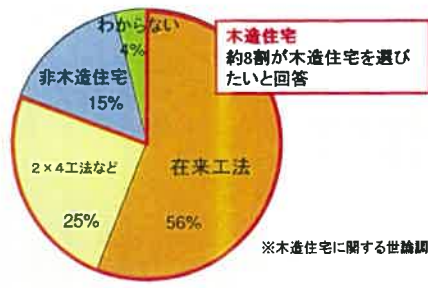
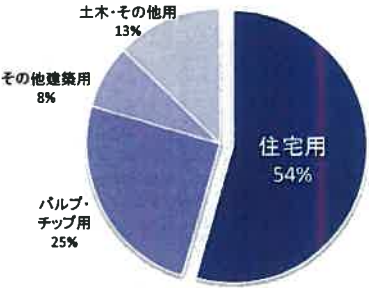
無垢材によるハイブリッドラス工法

・ 工務店でも扱いやすい、スギ製材(無垢材)を使用した最長10mのハイブリッド型ラスを開発し、工務店向けのPR資料を作成。



住宅分野での木材利用①

- 国産材の用途別シェア(試算)
- 住宅を建てる際の工法の意向



※木造住宅に関する世論調査

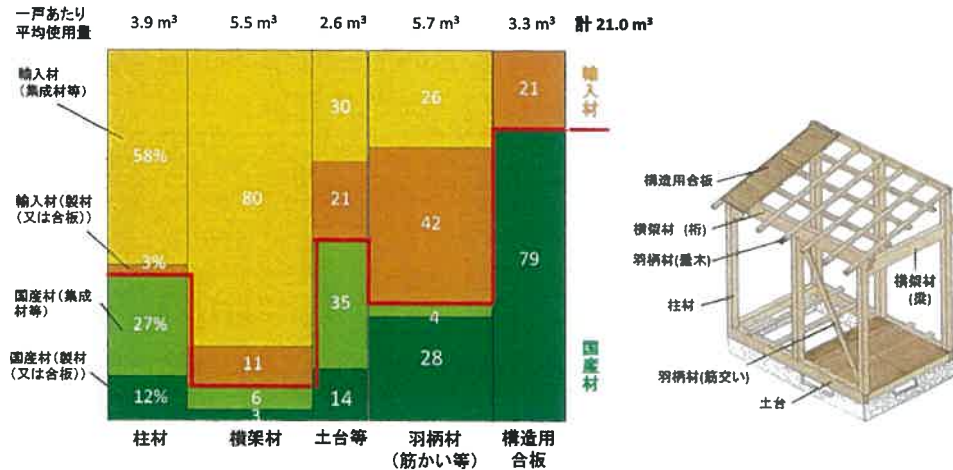
■ 木造住宅を選ぶ際に価格以外で重視すること

	H19調査	H23調査
品質や性能の良さ、耐久性	67.6%	68.4%
健康に配慮した材料の使用	70.6%	66.7%
国産材の使用	34.8%	39.8%
環境に配慮した製品の使用	34.1%	29.3%
種類や産地、費用が明らかな木材の使用	22.9%	21.0%

※内閣府「森林と生活に関する世論調査」

住宅分野の木材利用②

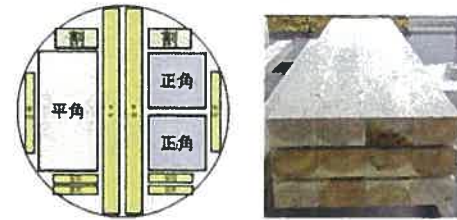
■ 木造住宅（在来工法）の国産材利用割合



17

製材（無垢材）利用の推進①

■ スギ芯去り構造材の開発（宮崎県）



長尺期化によるスギ大径材の出現
大径材を活かした芯去り平角の開発

乾燥が難しいとされるスギの
乾燥期間短縮・表面割れ減少を実現

■ 品質の確かな製品の安定供給（栃木県）



強度の明示が必要
機械等級区分の JAS を取得し、強度の測定結果を木材に表示

梁向けには多様なサイズを確保する必要
いかなるサイズにも対応可能な在庫を用意

スギ平角の出荷量が増加

18

製材（無垢材）利用の推進②

■ 工務店等との連携による、製材の現し利用を住宅の付加価値向上につなげる取組（全国各地）

○大分県・山口県の例



スギはヤング率が低めなため、梁せいが高くなりがちで工務店が敬遠

大分県の素材生産業者・製材業者と山口県の木材加工業者・工務店がグループを構成



天然乾燥材による柱・梁等の美しい木目を吹き抜け等で見せるように用いた住宅を販売

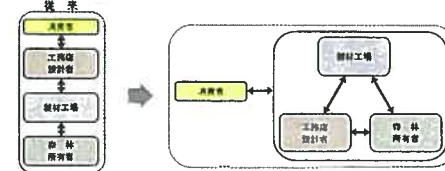
ダイナミックな空間を実現

19

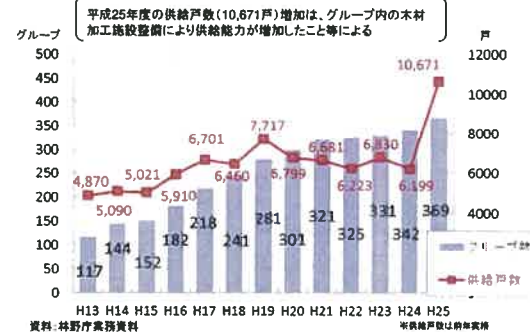
顔の見える木材での家づくり

○森林所有者、製材工場、工務店など川上と川下の関係者が一体となり、地域材を活用して、消費者の納得する家づくりに取り組む「顔の見える木材での家づくり」を推進。

■ 関係者連携のイメージ



■ 供給戸数及びグループ数の推移



熊本杉・天然乾燥研究会(熊本県熊本市)では、素材生産業者、製材工場、工務店、設計者等の11社が連携して、天然素材にこだわった家づくりを推進しており、平成22年には220戸を供給している。

素材生産業者と工務店・製材工場との直接取引により、直送によるコスト削減に取り組んでいるほか、森林見学ツアーを開催し、消費者(施主)を素材生産の現場へ案内するなど国産材利用の普及啓発活動も行っている。

製材工場、工務店、設計者などからなる鳥取の新しい住まいを考える会(鳥取県鳥取市)では、品質の確保された地域材の活用や、特産の因州和紙の使用など、品質と素材にこだわりながら、子育て世代向けにコンパクトな設計の住宅を提案するなど費用を抑えた家づくりに取り組んでおり、平成24年には15戸を供給している。

20

木質バイオマスのエネルギー利用

FIT認定を受けた木質バイオマス発電

小規模区分の新設

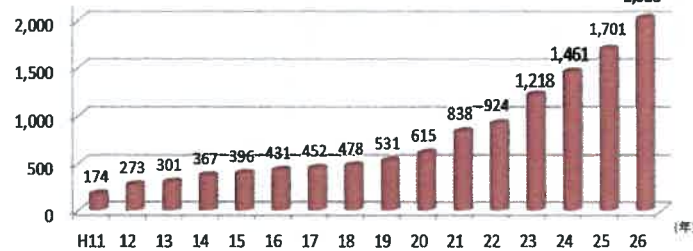
主な燃料	主に未利用木材	主に一般木質	主にリサイクル材	計
設備認定済	54件	37件	3件	94件
うち稼働中	20件	7件	1件	28件

買取区分	未利用木材 (2,000 kW未満)	未利用木材 (2,000 kW以上)	一般木質等	リサイクル材
買取価格	40円	32円	24円	13円

※ 固定価格買取制度情報公表ウェブサイト(資源エネルギー庁)等を参考に作成 (平成27年6月末時点)

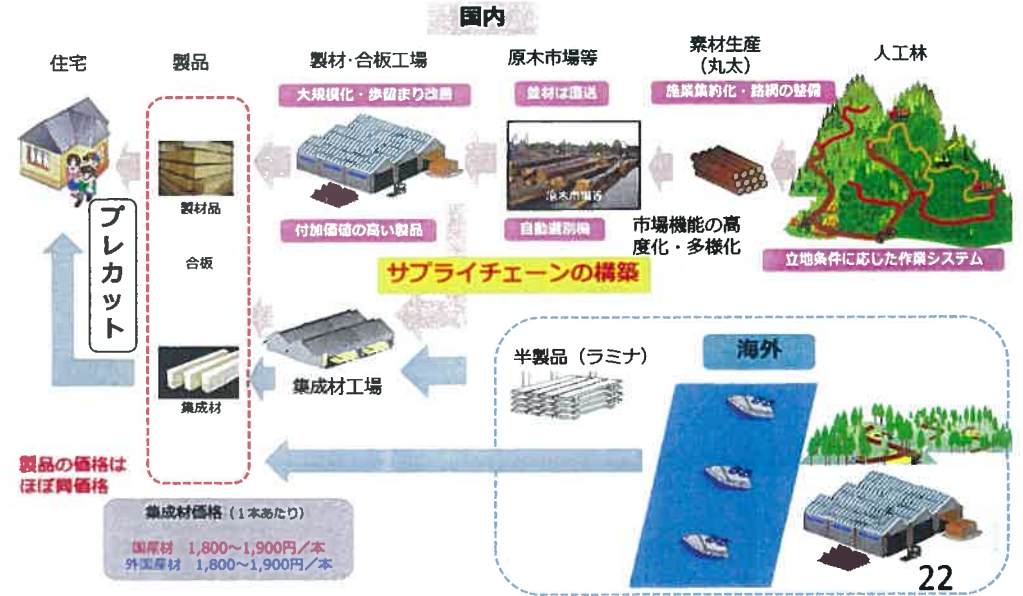
注: 買取価格は税抜き。□ は、27年度から新設されたもの。

木質資源利用ボイラー数の推移



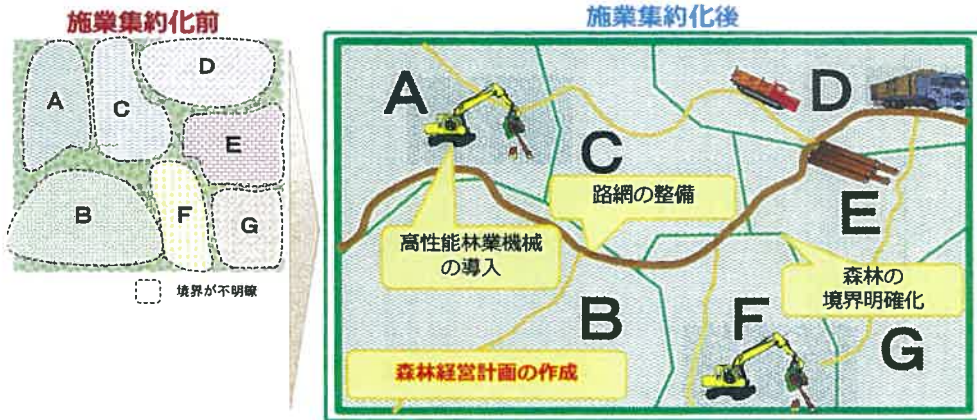
21

国産材の効率的かつ安定的な供給



22

ロットをまとめる・コストを下げる



林業技術者の育成 (森林所有者への同乗取得など)



森林境界の明確化



路網の整備



高性能林業機械の導入



安定供給の取組事例①



24

安定供給の取組事例②

安定供給に取り組むきっかけ 大手住宅メーカー等からの要望(M県M市)



25

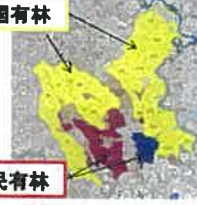
国産材の加工・流通体制の効率化 国有林と民有林の連携

- 国有林では、事業の効率化や低コスト化等を図ることのできる地域において民有林と連携した「森林共同施業団地」を設定。路網の整備と相互利用、民有林材と国有林材の協調出荷等に取組。
- また、国産材の需要拡大や加工及び流通の合理化等に取り組む製材工場等と協定を締結して、国有林材を安定的に供給する「システム販売」を促進。

民国連携による国産材の安定供給の事例

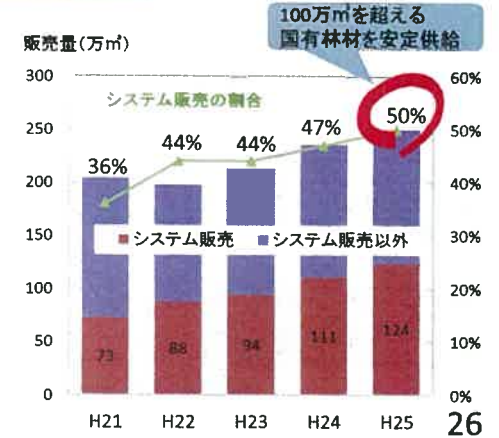
- 民国連携による施業(共同施業団地)

国有林



民有林

- 民国連携による原木の協調出荷(長崎県)



26

林業成長産業化に向けた課題

木材のサプライチェーンの構築 輸入材に対応しうる国産材製品の供給体制、様々な消費者ニーズの発掘

川上 (生産コストの低減)

- 効率的な素材生産
 - ・ 施業集約化 (誰が地域の森林を経営するのか) (森林経営計画、所有者・境界問題)
 - ・ 路網整備の加速化
 - ・ 効率的な作業システムの導入 (工夫)
 - ・ 優良な事業体の育成
- 造林・保育コストの低減
 - ・ どのような山を作るか(植栽本数、樹種)
 - ・ 伐採造林一貫作業システム (コンテナ苗とバイオ利用)
 - ・ 大苗、下刈の軽減



川中 (安定供給体制の整備)

- ・ 大ロット化 (輸入材に対応できる太い流れを構築する必要。大手プレカットの動き)
- ・ 付加価値系 (工務店、建築士等との連携など)
- ・ 歩止り向上と端材等の利用 (1.5万円の丸太→3.5万円)



川下

- ・ 需要先とのサプライチェーンの構築
- ・ 多様な需要拡大
- ・ 都市の木質化 (都市と地方の連携)



人材の育成 (フォレスタ、森林施業プランナー、フォレストワーカー等)

27

素材生産の低コスト化に向けた取組事例

各作業工程間で連携を密にし、生産性を向上 (M県K市)

- 森林作業道の開設と伐倒・集材・造材・単立等の各作業の連携を密にして、適切な人員配置と高性能林業機械の有効な稼働により生産性を向上。



生産性の従来方式との比較(m³/人・日)



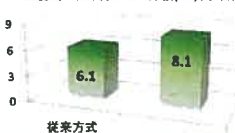
ロングリーチグラブの導入等による生産性の向上 (I県H市)

- フェラーバンチャー付きグラブバケットによる伐倒と森林作業道開設の一体的実施やロングリーチグラブの導入による集材作業の効率化により生産性を向上。



ロングリーチグラブを使用し、木寄せ集材距離を広げ、森林作業道の延長を減少させた。

生産性の従来方式との比較(m³/人・日)



リモコンによる操作が可能なタワーヤードの導入による生産性の向上 (K県H市)

- 従来使用していた集材機から、架設・撤去が容易でリモコンによる操作が可能なタワーヤードを導入したことにより生産性を向上。



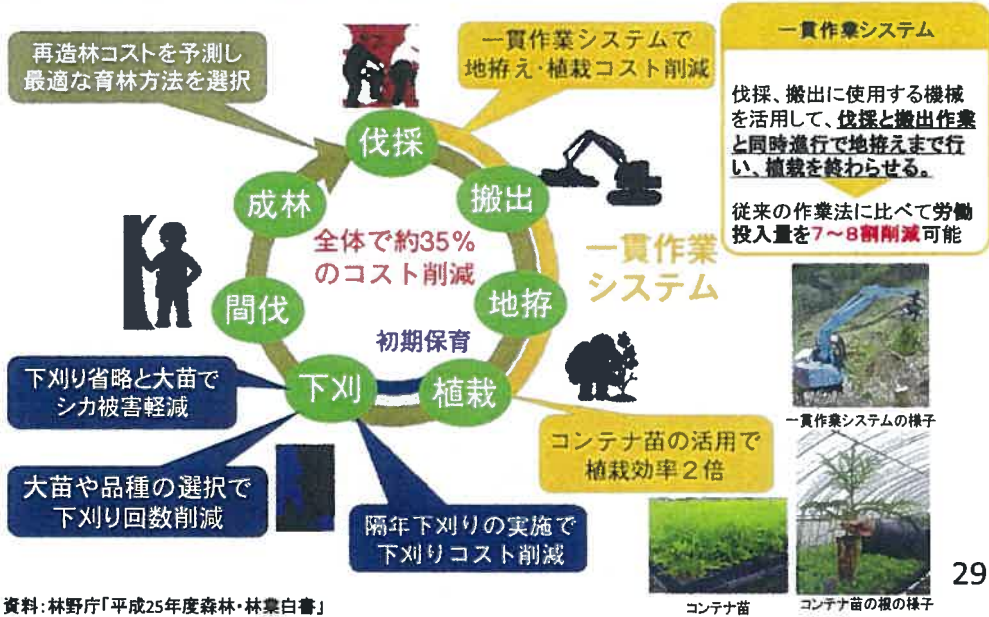
導入設置したタワーヤード

生産性の従来方式との比較(m³/人・日)



28

低コスト再造林の実用化に向けたシステム開発



資料：林野庁「平成25年度森林・林業白書」

確実な再造林の実施 ~低コスト化の推進~

(取組事例：伐採と造林の一貫作業システムの取組)

● 植栽適期の広いコンテナ苗を活用し、伐採・搬出作業と同時並行して地捨えや植栽を行う一貫作業システムを導入することにより、作業効率が向上し、地捨から植付までのコストを削減することが可能。あわせて初回下刈の省略や、植栽密度の低減等を行うことにより、再造林にかかる工程全体で低コスト化を図ることが重要。

一貫作業システムの仕組み

従来方式

伐採・搬出 → 地捨え → 植付

- 伐採と造林を別々に作業
- 地捨え・苗木運搬等は人力
- 裸苗の植付は春(又は秋)に限定

伐採と造林の一貫作業システム

伐採・搬出 → 地捨え → 植付

- 伐採と造林を連続して作業
- 地捨え・苗木運搬は機械を活用
- 地域・作業条件によって植栽適期が広く、植栽効率の高いコンテナ苗を活用

地捨え・植付コストを削減

あわせて、初回下刈の省略や、植栽密度の低減等を行い、全体コストを低減

国有林事業における取組事例

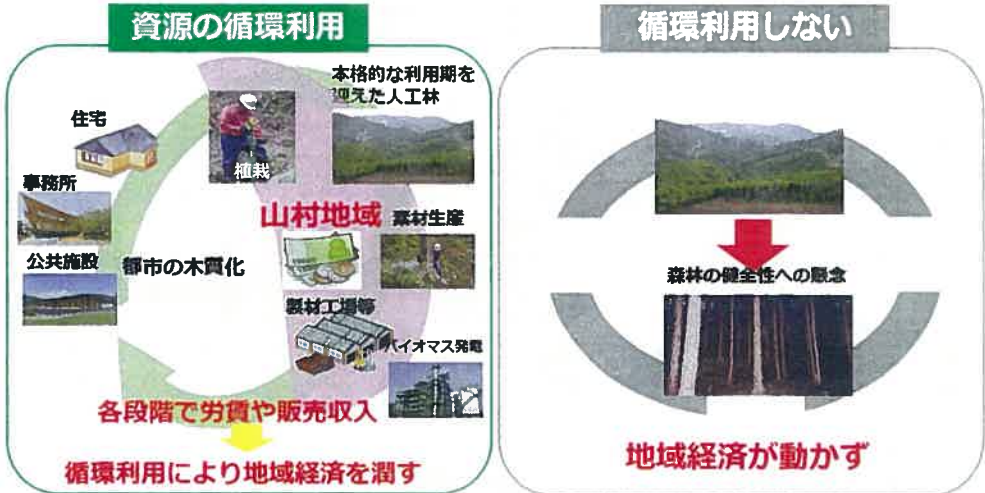
伐採とコンテナ苗を用いた植付を一括して発注・実施することにより、地捨え及び初回下刈を省力化するとともに、植栽密度を低減し、コストを削減。

従来方式	一貫作業
事例① (群馬県)	事例② (北海道)
地捨え：全区域実施 植付：スギ裸苗3千本/ha 下刈：5回実施 1,434千円/ha	地捨え：一部区域で実施 植付：スギコンテナ苗2千本/ha 下刈：4回実施(初回下刈を省略) 1,059千円/ha
約28%削減	約27%削減
1,094千円/ha	803千円/ha

※各経費は、1ヘクタール当たりの事業費(間接費を除く)

- 機械による地捨え
- フォワードによる苗木運搬

産業と雇用を生み出す森林資源 (公益的機能だけじゃない)



- 50年サイクルで1haの山を回すと(間伐50m³、主伐350m³、丸太9000円) 230万円(育林費) + 230万円(主伐費用) = 460万円 360万円(丸太収入) + 150万円(補助金) = 510万円 → 所有者に50万円(1万円/年) 地域に460万円(約9万円/年)

林業・木材産業の現状

	H20	現状	効果
国産材供給量(用材)	1,942万 m ³	122% → 2,366万 m ³ (H26)	供給量UP
林業の労働生産性 ※1人1日当たりの素材生産量	主伐	4.35 m ³ /人・日 → 135% → 5.88 m ³ /人・日(H25)	生産性UP
	間伐	3.45 m ³ /人・日 → 126% → 4.35 m ³ /人・日(H25)	
林業従事者の構成	高齢者率 (65歳以上)	27% (H17) → -6% → 21% (H22)	労働者の若返り
	若年者率 (35歳未満)	14% (H17) → +4% → 18% (H22)	
国内工場における国産材の使用割合	製材	63% → +10% → 73% (H26)	国産材需要UP
	合板	54% → +19% → 73% (H26)	
木材産業の経営状況(営業利益)	68万 円/社	5.5倍 → 376万 円/社(H25)	経営改善
自給率	24%	+7% → 31% (H26)	自給率UP

資料：国産材供給量及び自給率は、林野庁「木材供給表」、林業の労働生産性は、林野庁業務資料「林業従事者の構成」、国内工場における国産材の使用割合は、農林水産省「木材産出報告書」、木材産業の経営状況(営業利益)については、中小企業庁「中小企業実態調査報告書」、注：数値の合計値は、四捨五入のため合計と一致しない場合がある。

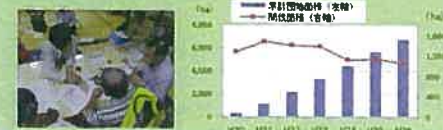
各地での取組紹介

集落単位で進める施業集約化

- A県T市では、大字(集落)単位の「地域森づくり会議」を設置して、小字を目安に、間伐予定面積5~50ha程度の「森づくり団地」を設定する「団地化推進プロジェクト」を展開。
- 集落説明会を行い、団地化の必要性や所有者メリット等を説明し、会議設置を促す。(集落説明会は、地域と共同で森づくりを進め、信頼関係を構築するための重要な「仕掛け」)



- T市が法務局から公園等を取得。空中写真、土地課税情報等を活用し、効率よく所有者リストや境界確認に必要な資料を作成。
- 団地代表者が連絡調整役となり、境界確認・森林調査を実施。その結果報告をかねて「団地会議(施業提案会)」を開催し、「森づくり団地計画書」をまとめている。



GISを活用した施業集約化の推進

- T県森林研究所では、昭和20年代以降に撮影された過去の空中写真を加工。これにより複数の年代の空中写真がGIS上で簡単に比較できるようになり、数年の林齢の差等を読み取ることで森林の境界を推定することが可能。
- また、N森林組合は、公園に地番や所有者、面積などの登記情報を加えた図面(森林素図)を作成し、空中写真と照合することで、森林境界の明確化活動に活用。作成したデータはハンディGPS等に取り込み、現地調査等に活用。



- 森林所有者への説明会では、3D化した空中写真を使い、鳥瞰図によりわかりやすく現地状況を伝える工夫を行っているほか、現地確認作業でもGIS上のデータを駆使し、確認作業の効率化を図り、26年度以降モデル地区において183haの経営計画を作成。



33

機密性○情報

各地での取組紹介

○限り

現場技能者の育成 (統括現場管理責任者等)

- H県Y林業は、林業未経験の若者を雇用し、徹底した安全教育、資格制度の導入などを行い、短期間で人材を育成する手法が高く評価されている。
- 所有林の間伐収入を主体に経営していたが、H20年から経営基盤の安定のため、規模を拡大して従業員を雇用。
- 現在の経営対象森林は約4,000ha(所有林180ha、施業委託3,800ha)で従業員を10名を雇用。



- 伐倒技術や重機操作をステップを踏んで習得させ、危険な作業モデルを実演するなど、安全を最優先に人材を育成。
- 苗木生産、素材生産、丸木選別などの作業を行い、総合的な知識・技術を習得させる。
- 個人・グループ日報の作成と職員間の対話、年間目標の設定と、選単位でコスト等を計算する「週間取りまとめ表」の作成により、コストを現場と共有しながら管理。
- 社内資格制度を導入(社長自ら試験問題を作成)し、資格に応じた手当支給や制服への資格名の表示など社員のモチベーション向上を図るなど工夫をこらしている。

現場技能者の育成 (森林作業道作設オペレーター等)

- 路網関係研修の修了者は、地域で伝達研修等を積極的に開催しており、H26年は全国で99回、2,736名が参加する現地検討会が開催されている。
- S県の研修修了者は、H26年に現地検討会を4回開催し、県、市町村、森林組合や民間事業者の技術者が計120名参加。
- 現地検討会では、森林作業道の関係規定や作設ガイドライン等について学ぶ座学と、ルート選択やヘアピンカーブの設定、盛土の転圧方法や、現地土質を踏まえた作設の留意点などを学ぶ現地検討会を繰り返して実施。



- K森林管理局では、間伐事業と合わせて森林作業道を作設している国有林を研修フィールドとして活用し、森林作業道の計画・作設に関わる技術者の育成や国有林への普及を目的とした現地検討会を開催。
- 森林管理署や県、市町村、素材生産事業者等の技術者が参加。
- 局職員等が講師となり、練形の選定や具体的な工法を、実演を交えて指導。

34

各地での取組紹介

「バイオマス産業都市」の取組

【取組内容】

- M市はO県の北部に位置し、畜産が盛んな高原地域と、林業が盛んな山間地域が広がる。(森林面積66千ha 森林率80%)
- 市の人口は昭和50年をピークに減少(過去10年間で2割減)し、高齢化率34%と、3人に1人が高齢者。
- 従来より、林業・木材産業が盛んで、素材生産会社12事業所、原木市場3市場、製材所約30社、製品市場1市場が存在。
- M市では、中山間の地域資源を生かした取組として、バイオマス資源の活用等に着目。バイオマス発電事業、バイオマスツアー(木材産業やバイオマス発電所、農業などを体験)を展開。
- 更には、市内の工場がCLT生産施設を整備するほか、CLTによる市営住宅や民間住宅が建設(3棟)されるなど、新たな取組を行っている。



CLT製造ラインとCLT共同住宅 バイオマス産業都市のイメージ

広がる「木の駅プロジェクト」

【取組内容】

- 近年、地域の複数の林家等が、NPOとも連携しながら協力して間伐する「木の駅プロジェクト」等の新たな取組が各地で始まっている。
- 収集・運搬した間伐材については、地域の実行委員会などを通じて、チップ原料やバイオマス燃料等として販売。
- 実行委員会などが発行する地域通貨と交換し、地域の商店での買い物に利用できるシステムを採用する地域も存在。
- 平成24年からは、同様の取組を行っている地域が集まる「木の駅サミット」が開催され、視察や事例紹介等が行われている。

【成果等】

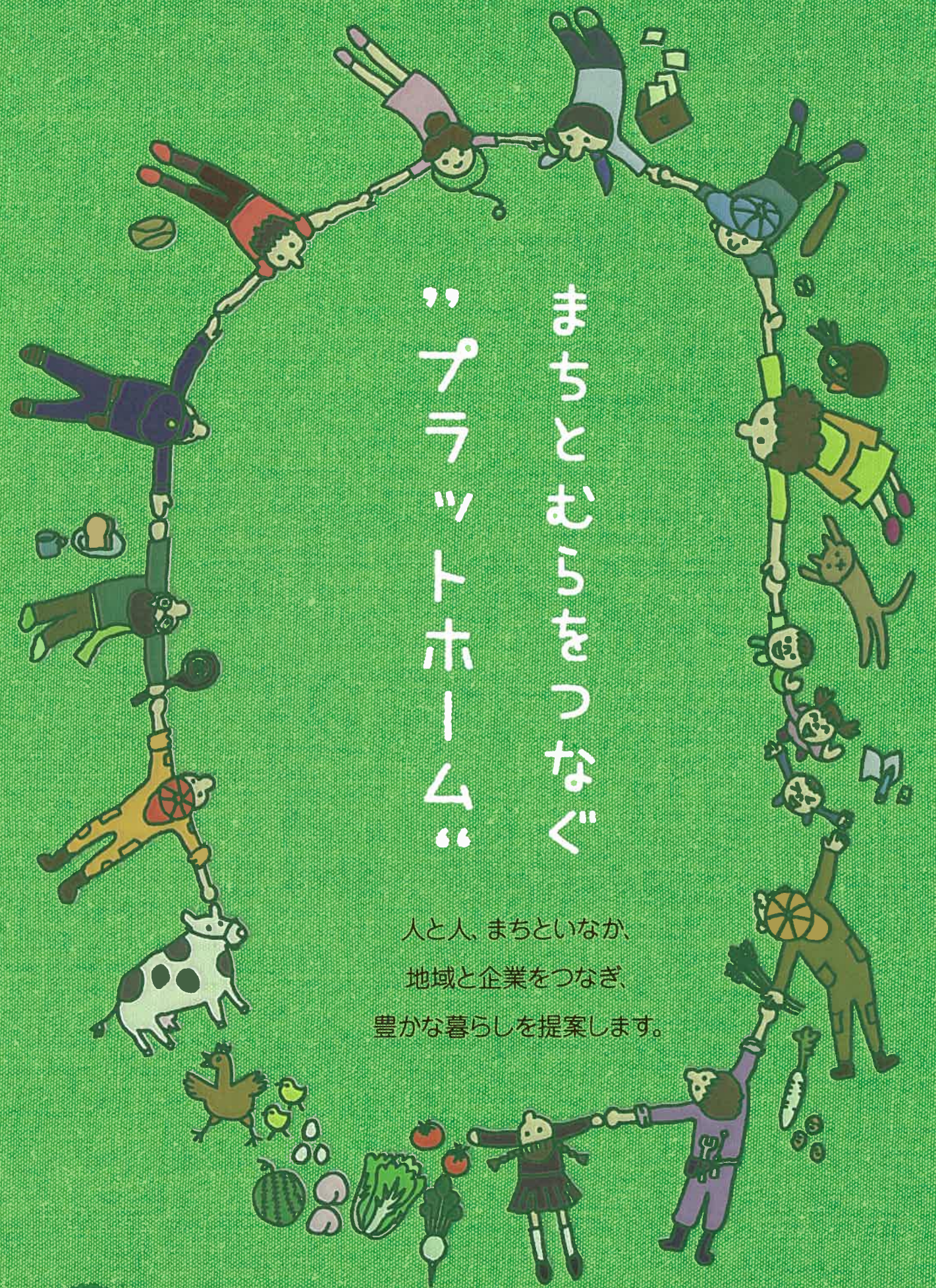
▶ 全国で32の木の駅プロジェクトが進行している。
※「木の駅プロジェクト」ホームページに掲載されている取組数

■ G県E市の取組事例



- 自治会、財産区、NPO等からなる実行委員会が運営
- 間伐材は、チップセンター、温泉施設等へ出荷
- 登録者58人、400t/年出荷
- 地域通貨「モリ券」を発行、19店舗が登録

35



“まちとむらをつなぐ プラットホーム”

人と人、まちといなか、
地域と企業をつなぎ、
豊かな暮らしを提案します。

土とつながる。

人とつながる。

地域とつながる暮らし方。

豊かな一年を想う冬。

春の訪れと共に、畑に種を蒔き、

太陽の陽を浴び、野菜の収穫を喜ぶ夏。

美りの私には、自然の恵みに感謝し収穫をー。

暮らしの中に感じる自然のリズム。

季節を感じる暮らしは心を豊かにしてくれる。

わたしたちは提案します。

街の喧騒の中에서도、

ふと柔らかな空気に包まれる様な暮らし方を、

自然の営みを感じられる暮らし方を。

森に遊びに行ったり、

森づくりに関わるのも良い。

街の中でささやかな土に向かうのも良い。

週末に田舎の農園に通うのも良い。

田舎に友人を作るのも良い。

田舎の友人が作る野菜を、

いのちとしていただくのも良い。

いっそ田舎へ住んじゃおうかー

というのも良い。

それぞれの暮らしの中に、

土とつながり、

人とつながり、

地域とつながる

生き方が見つけれられたら……

それが本当の豊かさ。

人間らしい幸せだと思おうのです。

一緒に、暮らしの豊かさの

種蒔きをしませんか。

豊田市 企画政策部 企画課

おいでん・さんそんセンター

〒444-2424 豊田市足助町宮ノ後 26-2 (足助支所 2 階)

TEL:0565-62-0610 (直通) FAX:0565-62-0614

開所時間: 午前8時30分~午後5時 (土日祝日・年末年始除く)

MAIL:sanson-center@city.toyota.aichi.jp

おいでん・さんそんセンター

検索



おいでん・さんそんセンター

ごあいさつ

“くるまのまち”豊田市は、森林が約7割を占める都市と農山村が共存する都市です。

おいでん・さんそんセンターは、日本の縮図ともいえる本市で、都市と農山村をつなぎ豊かで持続可能な地域づくりに向けた中間支援の取組みを行っています。

センターがめざす未来は、人口減少・超高齢社会の下でも、都市と農山村がそれぞれの強みを生かし支えあうことで新しい魅力や価値を生み出し、様々なライフスタイルを選択できる「暮らし満足都市」の創造です。

市民、NPOなどの活動団体や企業、行政、専門家が、おいでん・さんそんセンターというプラットフォームでつながり共に汗を流すことで、競い合って成長してきたこれまでの社会を、支えあって豊かになるミライの社会に変えていきましょう。



センター長
鈴木辰吉

おいでん・さんそんセンターの 描く未来とは…

農山村に移住してきた人たちが
地域と関わりを持ちながら
暮らし続けることができる。
そのための多様な
働き方がある。



子どもの歓声が響く農山村。
農山村など暮らしの原点に触れる
都市部の子ども。

両方の子どもたちが自然と地域に囲まれて
自己肯定感を持って育つ。



いのちをつなぐ食とその生産の
営みが、都市部の生活者に支えられ、
日本の原風景である
農山村の景観が守られている。

人口減少・少子高齢化が進む
農山村にUターン、リターンの
移住・定住が進み、
活気あふれる集落になる。



地域にさまざまな森づくりの
担い手がいて、豊田市の森の
公益的機能を高めながら、
森の恵みを活かして
暮らししている。



お手伝いします

こんな悩みありませんか？

思い当たったら『おいでん・さん せんセンター』へおいでん!!



まち

Case 01

もっと社員同士が
コミュニケーション
できるようなCSRが
できないかなあ？



Case 02

近所に子どもを
遊ばせる場所がない。
もっとのびのびと
自然の中で遊ばせたいあ...



Case 03

いなかで
就農・起業など
新しいチャレンジが
してみたい!



Case 04

子育てするなら、
やっぱり自然豊かな
山里がいいな。
でも住むところどうしよう...



Case 05

もう年も年だし、
畑や田んぼができないや...
どうしたらいいだやー



Case 06

草刈りできる人は
どんどん減っているのに
草は伸び放題。
猫の手も借りたーい!



Case 07

ある朝、窓を開けてみた。
見える家は、全部空家だと
気がついた。
集落、どうなっちゃう??



Case 08

子どもの頃から毎年ずっと
楽しみにしてきた祭り。
今年は子どもが少なくて、
開催できるかどうか...



おいでん・さんそんセンターがまち

といながのみなさんをつなぎます!

おいでん・さんそんセンターでは様々な「まち」と「いなが」をつないできました。その一例をご紹介します!

住友ゴム(まち) × 東萩平町(いなが)

いながとまちのパートナー協定締結



2010年から住友ゴム工業(株)が旭地区東萩平町にある御須原山の環境整備・植樹に継続的に取り組んでいます。2014年8月30日には、「いながとまちのパートナー協定」の締結が行われました。今後も郷土の森づくり活動として、緑だけでなく、花もいっぱいの魅力ある山を目指し、活動されるそうです。



Simworks(まち) × 足助地区のみなさん(いなが)

グルメセンチュリーライド足助



アメリカオレゴン州ポートランドの自転車パーツメーカーが主催する「食と自転車」をテーマとした「グルメセンチュリーライド」が日本発上陸!足助が舞台として選ばれました。参加者のみなさんは、大自然の中でのライドに大興奮!地元の施設で、地元の食材を味わってもらうこともでき、大成功でした。



まちの小学生(まち) × 地区のみなさん(いなが)

セカンドスクール フリー版



長期連休を利用して、旭、足助、稲武、下山などの各地域で、家族から離れて山里の暮らしを体験するセカンドスクール。自分たちで収穫して作る食事、釜で炊いたご飯、川遊び、農家やテントでの宿泊。自然の中で自ら作り出す暮らしは、子ども達の生きる力を呼び覚まします。毎年申し込みが殺到する人気の企画です。



移住希望者(まち) × 旭・足助地区に移住したみなさん(いなが)

住開き



中山間地に移住してきた若者世帯を訪ねる「住み開き」。収入、子育て、地域のお役、家のこと…。様々な質問にひとつひとつ丁寧に答えていく移住家族たち。大人の周りには自由に走り回る子どもたちが。3軒のお宅訪問で、一口で移住と言っても三者三様だと分かります。とても参考になったと好評でした。



集落活動応援隊(まち) × 小原地区岩下町(いなが)

草刈応援隊



岩下町は12世帯、高齢化率75%の小規模高齢化集落です。応援隊は草刈作業を中心に、時には竹藪の整備も行います。ボサボサの藪は猪の住処となり、農作物や圃場を荒らされる原因になっています。集落の方から「ようやくもらえて有難い」と笑顔で声を掛けて頂けることが応援隊の励みです。



トヨタ自動車労働組合(まち) × 新盛里山耕実行委員会(いなが)

農業体験in新盛町



トヨタ自動車労働組合に加盟する20家族60名程が豊田市中間地域のブランド米ミネアサヒ作りを新盛里山耕実行委員会の指導の下、田起こしから収穫まで半年間に渡って体験します。耕作放棄地の開墾から始めたこの事業の効果で、周辺的美田が蘇りました。



ジオコス(まち) × 旭地区伊熊営農組合のみなさん(いなが)

ジオコス耕隆 in マイファーム



都市部企業が耕作放棄地を活用した農業研修を行う中で、社会貢献活動や福利厚生、人材育成、地域交流の機会とし、企業価値を高めていくことを目的とした取り組みです。企業の参加者は山里での農から「生きる力」を学ぶこと、農山村は参加者の力により「地域活性化」を図ることといった、相互の効果も期待できます。



移住希望の家族(まち) × 稲武地区トヨタ工業(株)(いなが)

OPEN INABU



自然環境に恵まれた、稲武での暮らしを分かりやすくパッケージした体験イベント。「OPEN FACTORY」では地元の自動車内装工場での小物制作、「OPEN FARM」では就農体験をしました。これに空き家利用の「HOUSE」も加わります。女子大生も多く参加し、華やかなりし稲武の生活体験となりました。





どうやってつながったの? STORY Part01

東萩平暮らしの参観日編

1 **しーん...**
Yさんの家の周りは空き家だらけ、
どうにかしたいと思い、
大家さんへの交渉をはじめた

2 交渉の努力が実り、
空き家を賃して
もらえることになった
(大家さん)
空家を賃す
ことにします。

3 空き家情報バンク
制度に登録しても
いいけれど、
物件の紹介しか
できない...

4 物件だけじゃなくて、
地域も一緒に
見てもらいたいなあ。

5 暮らしの参観日をやって
空き家と地域両方
見てもらおうと思うので
協力してください。
いいアイデアですね。
よろこんで!

6 おいでん・さんそんセンターで
参加者募集!!
東萩平暮らしの参観日

7 当日の様子
多くのご家族に参加していただき...

8 この地域の家を
とても気に入りました...
なんと!
地域面談があり、
入居者が
決まったのだ!!

9 空き家に子どものいる
若夫婦が入ることになり、
満足したYさんでした...

どうやってつながったの? STORY Part02

芳友町の万燈祭り編



1 もうすぐ石野地区の伝統的祭り
「**万燈祭り**」
代々、参加できるのが小学生の
男子だけという決まりがあり
存続を危ぶむ

2 **もうだ!**
おいでん・さんそん
センターに
相談してみよう!

3 (センター長)
わかりました
センターで
参加者を募集
してみましょう!!

4 「広報とよた」や
チラシなどで募集を
かけて様子を見てると

5 **当日...**
なんと!
結果17名の
申込があった!!

6 祭りでは
小学生男子たちが
たいまつを
振り回している
昔ながらの風景が

7 **カキ!**
家族はもちろん、
写真愛好家なども来た!!

8 後日アンケートで
『初めて参加してびっくりしたことばかり
だったけど、とても感動しました』
『地元のひとがやさしくむかえて
くれてうれしかった』
などの感想があった

9 無事に祭りができたことに
ほっとするAさんと
地域の方たちの満足げな様子
おしまい♪